

## 詩歌

## 延山四季

武田海正

春 霧深く天女をまもる影嚮石

夏 春木川水音絶えて蟬の聲

秋 袈裟掛の松よりみゆる久遠寺

冬 雪ふみてひとりぬかつく御草庵

春秋八年を憶ひて  
懐かしの友へ

孝秀

この袖に來合せし人の縁かな

## 短歌 近詠數首

石井綠線

◇午睡よりさめてみつむる電氣カバーに

蠅二三匹戯れおれり

◇姿見の前に立ち居て妹は

ほゝゑみて居りさも嬉しげに

二二八

◇いつしかに兒は共に歌ひ居ぬ  
我吹き居りしハモニカの音に◇秋の夜と鈴虫の音ともしひと  
我に來りてかなしみを待つ◇瀧に打たれ祈る人ありしふきさへ  
つめたく思ふ今日此頃に◇寥しさはいつ來たるらむ山里に  
尾花亂れて秋風を吹く

## 夕べの想

中澤小樹

夕陽あわく落ちて行く

山のあなたを眺むれば

何時も悲しきものの懷ひ

うせにし友を思はれて

若草萌える野にふして

君とうたひし春の唄